

## 在宅血液透析の導入における問題点

長崎腎病院

○高木伴幸、矢野利幸、原田孝司、船越哲

### 【背景】

在宅血液透析（HHD）は、施設透析と比すると日常生活の自由度が高く、長時間透析や連日透析も可能のため、QOL や生命予後の向上が期待されている。一方、自宅で透析を施行する不安感や教育・費用・管理等の諸問題より、HHD の普及率は全血液透析患者の 0.1%に過ぎないのが現状である。

### 【目的】

当院における外来維持透析患者の意識調査を行い HHD の普及を目指す。

### 【対象・方法】

外来維持透析患者 219 名にアンケート調査を行う。

### 【結果】

HHD における躊躇する理由は 1) 自己穿刺、2) トラブル時の自己対応、の 2 点に絞られた。また背景として経済面と介助者の確保の要因が挙げられた。

### 【結語】

現時点では HHD システムと教育の充実により HHD は安全に施行可能と思われる。今後、本会も含めて継続的に HHD の状況報告を行い、長崎県における HHD 普及向上に努めていきたい。